

東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 24～ 平成29年11月発行

【発行】

岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ
岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7592

内陸の生活支援相談員等が災害公営住宅の建設に伴う支援について話し合いました

平成29年10月6日(金)10時30分から、北上市総合福祉センターで内陸部生活支援相談員等情報交換会を開催し、内陸部の市町村社協の生活支援相談員をはじめ、行政、もりおか復興支援センター、いわて内陸避難者支援センター、いわて連携復興センターの職員等31名が参加しました。

情報交換会は、沿岸で自治組織形成に取り組んでいる岩手大学の船戸義和特任研究員をアドバイザーに迎え、午前は沿岸の事例紹介、建設前・建設後における自治組織形成に係るスケジュール等をお話いただきました。

船戸氏からは「社協だけで自治組織をつくるのではなく、行政や他の支援団体と連携して今からスケジュール感を持ちながら支援を進めることが大切」「自治組織はできて終わりではなく、できた後も関わり続けることで維持につながる。関わり続けられるのは皆さんをはじめとする地元の支援者」とのアドバイスがありました。



午後は、意見交換を行いました。転居費用に関すること、他団体との連携に関すること、自分の市での取組状況紹介や船戸氏から個々の質問への助言等が盛んに行なわれました。

挙げられた主な意見及び船戸氏の助言は下記のとおりです。

- 災害公営住宅入居予定者の中には、所得が多く、収入要件で仮内定が取り消される可能性のある世帯がいるため、みなし仮設終了後も通常家賃を払いながら現在の借家に住み続けるか、加算支援金を受け中古住宅を購入するか意向を確認中
- 小規模の団地の場合、ご近所の顔はだいたい想像がつく。支援しなくても自分たちで何とかできる住民の層なのか、支援しないと動き出せない住民の層なのか見極め、後者の場合は何らかの介入が望まれる。
- 集合タイプの公営住宅は様々な人が入居するため、個人の意見を反映しにくい。例えば「畑や土の部分があるといい」という人もいれば「アスファルトにして駐車スペースにした方がいい」という人もいる。
- ペットを飼っている人は、例えば団地内でペットの飼い方の勉強会を実施すると、ペットを飼っている人同士でつながりをもてる可能性がある。

内陸部では盛岡市、花巻市、北上市、奥州市、遠野市及び一関市の6市で災害公営住宅が建設されます。現在建設途中で、来年度から入居開始となるところや、まだ更地の状態のところ等、進捗は様々です。

本会が確認した状況は下記のとおりです。

(平成29年10月現在)

	災害公営住宅 建設地	戸数 【タイプ】	自治組織 形成形態	備考
盛岡市 (県営)	○青山町	8号棟 24	既存自治会に組 込まれる	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回ネットワーク会議開催中。 ・災害公営住宅入居予定者を対象に、周辺環境見学バスツアーを実施。
		9号棟 18		
10号棟 8				
○南青山	112~123(戸数調整) 【集合】	団地で独自に形 成		
花巻市 (市営)	○上町	21 【集合】	既存自治会に組 込まれる	
	○仲町	9 【集合】		
北上市 (県営)	○黒沢尻	34 【集合】	既存自治会に組 込まれる	<ul style="list-style-type: none"> ・市が東日本大震災広域避難者支援指針を作成。 ・今までに市と社協の会議開催済。
遠野市 (市営)	○穀町	16 【戸建】	既存自治会に組 込まれる	<ul style="list-style-type: none"> ・災害公営住宅は仮設住宅と同じ場所に建設される。 ・自治会長と民生委員も関わりながら、既存自治会に組込まれている。 ・団地会の役員の成り手不足が課題。 ・草刈りや掃除など、高齢者が地域の肉体労働をこなすのは厳しい。
	○稲荷下	6 【戸建】		
奥州市 (県営)	○水沢区	12 【戸建】	既存自治会に組 込まれる	
一関市 (県営)	○萩荘	35 【集合】	既存自治会に組 込まれる	
	○千蔵町	10 【集合】		
一関市 (市営)	○山目	2 【集合】	既存自治会に 組込まれる	

盛岡市内の災害公営住宅建設現場と周辺の街を見学するバスツアーが開催されました

平成29年10月7日(土)13時から、もりおか復興支援センター主催の「備後第1アパートと周辺の街みたけ・青山・月が丘見学会」が開催されました。あいにくの雨模様でしたが入居予定者約50名中約10名、岩手県立大学、東北工業大学、東京大学の学生と先生方など7名、滝沢市社協1名、盛岡市危機管理防災課1名、もりおか復興支援センターのスタッフ7名が参加しました。

備後第1アパートの建設現場には、月が丘2丁目の町内会長や民生委員もかけつけ、入居予定者の方々へ歓迎の言葉をかけていました。

ツアーが進むにつれて、参加者同士の交流も徐々に進み、一緒に間取りを確認したり、自分の傘に入れてあげるなど、入居前から住民同士が繋がる機会になりました。

災害公営住宅の入居に当たり、自分が将来にわたり住む地域として愛着を持ちながら生活するには、周囲の環境に加え、ご近所同士の繋がりを育むことが重要だと感じられました。